

① 安全・安心でみんながいきいき暮らすまち

(1) みんなで健康づくりを進め、信頼できる地域医療をつくります

基本方針	成果指標	算出方法	当初値	目標値	実績値	成果	課題
日常生活に定着した健康づくり運動や介護予防活動に市民自らが積極的に取り組み、心と身体の健康を守り、健康寿命を延ばします。	自分が健康であると感じる市民の割合	市民満足度アンケートで、自分の健康について「とても健康である」「健康である」と答えた人の割合	77%	85%	76%	健康診査を受ける市民の増加などにより、健康を意識するかたは増えたが、自分が健康であると感じている市民の割合は微増減を繰り返しており目標値には達しなかった。	主観的健康感とは、身体面だけではなく精神面の影響も受けることがわかってきているため、引き続き健康教室の開催など市民一人ひとりの健康増進に向けた取組を強化していく。
	健康診査を年1回受けている市民の割合	市民満足度アンケートで、過去1年以内の健康診査を「受けた」と答えた人の割合	71%	75%	68%	広報紙等を活用し、受診勧奨したが、健康診査を年に1回受けている市民の割合は近年横ばい傾向にあり目標値には達しなかった。	引き続き健康診査の受診を促し、市民意識の向上を図る必要がある。広報紙やチラシ、健康相談等を通じて更なる周知に努める。
安心・信頼して医療が受けられることができるよう、かかりつけ医の推進や救急医療の充実など地域医療システムを確立します。	かかりつけ医を持っている市民の割合	市民満足度アンケートで、かかりつけの医師が「ある」と答えた人の割合	68%	75%	71%	健康診査の受診や相談を通じ、かかりつけ医を持っている市民の割合は年々増加したが、目標値には達しなかった。	健康診査の受診勧奨や健康相談などを通じて、病状にあった医療機関の紹介等かかりつけ医を持つきっかけをつくる。また、ホームページなどを通じて広く市民に働きかけていく。
市立病院は経営基盤を確立させ、地域での役割分担を進め、良質で安全・安心な医療を提供します。	市立病院の救急医療に関する不満足度	市民満足度アンケートで、市立病院の救急外来について「不満である」「どちらかといえば不満である」と答えた人の割合	19.5%	13%	15%	ER（救急医療）での専従医師の確保など、受け入れ体制を充実してきたことにより不満足度は低下したが、目標値には達しなかった。	今後も自治体病院として、市民が満足できる救急医療を提供できるよう、救急車を断らないという方針の下、人材の確保と育成等による救急医療の質の向上を図り、救急診療体制を充実させていく。
	市立病院の外来患者紹介率	紹介患者数/初診患者数×100	40%	60%	65%	地域の医療機関への訪問活動により顔の見える関係を構築するなど、連携を強化してきた結果、目標値を達成することができた。	引き続き、地域の医療機関との連携強化に取り組むとともに地域医療ネットワークシステムの充実による情報インフラの整備を図り、地域医療支援病院として地域の医療機関との更なる連携に取り組む。
	市立病院の経常収支比率	経常収益/経常費用×100	95.7%	101.2%	96.0%	病床稼働率が伸び悩むとともに、消費税増税などによる経費の増により、費用が収益を上回った。さらに、新型コロナの影響により、入院、外来ともに患者数が減少し、医療収益も大きく減少した結果、目標値には達しなかった。	新型コロナの影響は続いているが、新病院への移転にあたっては、健全な経営であることが前提であるため、抜本的な経営改善を行っている。

(2) ノーマライゼーションの理念に基づき誰もが安心して暮らせるバリアフリーのまちをつくります

基本方針	成果指標	算出方法	当初値	目標値	実績値	成果	課題・今後の方針
高齢者が住み慣れた地域でその人らしい生活を続けることができるよう、市民・事業者・行政が協働し、高齢者施策の推進を図ります。	介護保険サービスを受けている人のうち、受けているサービスに不満足な人の割合	高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定のためのアンケート調査で、現在利用しているサービス内容について「多少不満」「大変不満」と答えた人の割合	11.8%	6.2%	4.8% (R1)	保健福祉サービスにおける苦情解決制度の活用などを通じ、改善が図られ、令和元年度（2019年度）において目標値を達成することができた。	引き続き、保健福祉サービスにおける苦情解決制度の活用や介護サービス評価専門員会議における事業評価により、介護サービスの質の向上に取り組む。
	高齢者ふれあいきいきサロンの参加者数	高齢者ふれあいきいきサロンの参加者数	8,550人	10,000人	3,118人 《参考》 10,894人 (R1)	令和2年度（2020年度）は新型コロナウイルスの影響でサロンや食事会の中止が相次いだ。令和元年度では目標値を達成した。	今後も新型コロナウイルスの影響は継続する可能性が高いが、サロン以外の通いの場も含め、広く外出促進に努める。
	週末滝道ウォーキングへの参加者数	週末滝道ウォーキングへの参加者数（1週あたり）	158人/週	200人/週	210人/週	参加日数に応じたグッズ配布や割引特典により、運動に関心がない市民も参加したくなるような取組を行った。週末滝道ウォーキングへの参加者数は、平成26年度（2014年度）と比べて約1.3倍に増え目標値を達成することができた。	引き続き、健康な体づくりのため、イベント内容の充実やホームページなどの広報活動に力を入れて参加者数の増加を図っていく。
	ラジオ体操実施会場数と参加者数	ラジオ体操実施会場数と1日あたりの参加者数	17会場 437人/日	26会場 600人/日	37会場 665人/日	参加日数に応じたグッズ配布や割引特典により、運動に関心がない市民も参加したくなるような取組を行った。ラジオ体操実施会場数は、平成26年度（2014年度）当初と比べ約2.2倍に増え、参加者数も約1.5倍に増え、いずれも目標値を達成することができた。	引き続き、小学校単位で実施されていない地域を中心に開催場所の増加を推進していく。
障害者市民についての理解を深めるとともに、自己選択・自己決定を尊重し、ライフステージに応じた総合的な障害者市民施策を推進します。	障害者グループホーム（ケアホーム）の利用者数	障害者グループホーム（ケアホーム）の利用者数	78人	136人	166人	ニーズの高まりや、地域移行の動きなどから、グループホームの基盤整備が図られたことにより利用者数が伸び、目標を達成することができた。	さらなる地域共生社会の実現に向け、市の補助のあり方の検討も含めて、グループホームの利用ニーズに応じて基盤整備が促進されるよう取組みを継続する。
保健福祉施策を総合的に推進するとともに、専門的機関とNPO・ボランティアなどによる自主的な活動が連携し、地域での支え合いを支援する仕組みを構築します。							

(3) みんなで支え合って暮らしの安全を守ります

基本方針	成果指標	算出方法	当初値	目標値	実績値	成果	課題
自治会などと協働して災害に強いまちづくりの推進・危機管理体制の整備を進めるとともに、自治体間の広域連携を進めます。	地震などの災害に備えて対策をとっている市民の割合	市民満足度アンケートで、家庭で災害に備えての対策を「とっている」と答えた人の割合	53.5%	100%	79%	地域や自治会への防災に関する講習や訓練等により、市民に直接周知する機会を積極的に作った。さらに、毎月発行される広報紙「もみじだより」で、防災対策等の啓発を繰り返し行うなどし、対策を取っている割合は増えたが、目標値には達しなかった。	引き続き、生活の中での少しの工夫が防災対策になるという意識が、身近な取組みにつながるよう継続的に啓発を行う。
	地縁団体の世帯加入率	自治会、マンション等管理組合加入世帯数/全世帯数×100	53.3%	70%	58%	防災や防犯の観点から自治会への加入促進を図り、自治会など地縁団体加入世帯の割合は増えたものの、目標値には達しなかった。	引き続き、災害時の備えとして自治会の大切さを広報紙等で繰り返し伝え、加入を呼びかけるとともに、転入者や自治会のない地域へ働きかけ、自治会加入・新規発足の促進を図る。
関係機関や市民との協働による防犯体制を強化し、安全で住みよいまちをめざします。	窃盗犯認知件数（侵入犯・街頭犯罪）	窃盗犯認知件数（侵入犯・街頭犯罪）	1,240件	360件	209件	窃盗件数は毎年減少傾向にあり、通学路防犯カメラや自治会防犯カメラ設置、市民が主体として活動するわんわんパトロールの活動効果が表れ、目標値を達成することができた。	引き続き、広報紙等で市民や自治会へ、わんわんパトロールや防犯カメラ設置補助金制度の周知を図る。また春・秋の地域安全運動について箕面警察署との協力体制をより強固なものとし、窃盗犯認知件数の減少に努める。
消防・救急体制の充実・整備を図るとともに、市民の協力を得て火災や救急への備えを充実します。	出火率（人口1万人あたりの出火件数）	火災件数（1月1日から12月末）÷人口（12月末現在）×1万人 ※消防年報（箕面市）	3件	1.3件	0.9件	各種火災予防広報活動の取り組みを継続したことにより、目標値を達成することができた。	引き続き、消防車両による火災予防巡回宣伝をはじめとした、コミュニティ放送、ホームページなどによる各種火災予防広報活動の実施や夜間警防パトロールなどの取り組みを継続していく。
交通事故の減少に向け、人命尊重を第一に考え、高齢社会に向けての対策など市民の暮らしの変化に応じた交通安全施策を進めます	交通事故発生件数	交通事故発生件数 ※箕面の交通白書	714件	500件	277件	交通事故発生件数は、箕面市自転車安全条例の施行及び広報、児童に対する交通安全教室、高齢者に対する交通安全大会等の開催や広報の効果が表れ、目標値を達成することができた。	引き続き、広報紙等で市民に対して、自転車の安全利用及び高齢者に対する交通安全対策の周知を図り、春・秋の全国交通安全運動について箕面警察署との協力体制をより強固なものとし、交通事故発生防止、交通事故死者数の絶無に努める。

(4) みんながいきいき働き、豊かに暮らせるまちをつくります

基本方針	成果指標	算出方法	当初値	目標値	実績値	成果	課題
雇用対策及び勤労者福祉に関する制度の周知に努め、人がいきいきと人間らしく働けるよう雇用環境の整備を図ります。	勤労者互助会の加入者数	箕面市勤労者互助会の加入者数	1,497人	1,700人	1,570人	制度の周知啓発当により加入者数は増加傾向にあったが、新型コロナウイルスによる経営状況の悪化等により、加入事業所数が減少傾向となったため、目標値には達しなかった。	退会した事業者から聞き取りを行うなどしながら福利厚生事業の充実等による会員サービスの向上に努め、加入促進を図る。
地域の雇用機会を増やし、公共職業安定所などの関係機関と連携して、ひとり親家庭や障害者市民などの就職困難者の就労を支援します。	地域就労支援事業における相談者の就職率	就職者／地域就労支援事業での相談者×100	15.7%	30%	9%	関係機関との連携等により、相談者数は増加傾向である一方、ひきこもりや生活困窮など就職困難者等の課題は複雑化しており、就職率は伸びず、目標値には達しなかった。	引き続き、きめ細やかな相談と関係機関との連携等により就業へつなげる。
	シルバー人材センターの就業率	就業実人数／箕面市シルバー人材センター会員数×100	84.2%	90%	67%	積極的な周知・啓発活動により会員数は増加した一方、会員の高齢化による仕事のミスマッチ等により就業率は伸びず、目標値には達しなかった。	引き続き、企業訪問や新規事業の展開等により就業機会の拡大を図る。
消費生活センターの機能を強化し、消費や食の安全・安心を守ります。	消費生活苦情相談の解決率	箕面市立消費生活センターでの消費生活苦情相談の解決割合	97.3%	99%	99%	消費生活苦情相談の目標解決率99%を達成した。今後も、複雑化、巧妙化、悪質化する相談案件に対応するため、今後も相談体制の強化及び消費者への情報発信を行う。	今後も適正に相談を受けられるよう、相談員研修の受講等、継続して消費生活センターを運営するとともに、国民生活センター等関係機関との連携を強化する。また、消費者に対して積極的に情報発信を行う。